

# ロシア 東欧 経済速報

社団法人 ロシア東欧貿易会 〒104-0033 東京都中央区新川1-2-12 金山ビル Tel.(03)3551-6218  
ロシア東欧経済研究所 <http://www.rotobo.or.jp> [年間購読料・送料共前納 18,000円]

2001年(平成13年)5月15日 No.1192

## 目次

2003年ロシア危機説をどう見るか .....	坂口泉・高橋浩	1
統計速報 .....		5
ロシアがGDPを上方修正		
CIS諸国通貨の為替レート .....		6

## 2003年ロシア危機説をどう見るか

はじめに 昨今、「2003年ロシア危機説」と称する議論が同国の内外で持ち上がっている。この危機説なるものの正体は何か。今ロシア経済の何が問題なのか。当研究所の坂口泉調査部次長と高橋浩研究開発部次長が話し合った。

### 2003年危機説とは何か

坂口：2003年ロシア危機説というのは、昨年来取り沙汰されている、文字通り2003年にロシア経済が深刻な状況に陥るという予想のことである。その論拠というのが2つあって、第1に2003年にロシアの対外債務返済のピークが来るという点。確かに、2003年の債務返済義務は180億～190億ドルに上り、これは当面最大の額である。第2に、ロシアの各種インフラが2003年に集中的に設計寿命を迎え、使用できなくなるとされる問題である。とくに電力インフラが危ないと言われるが、その他の生産インフラについても危惧する声がある。

高橋：さらに、この危機説が広がっていく過程で、政治的要因も加味されるようになった。つまり、ロシアでは2003年に下院選挙、2004年には大統領選挙が行われる予定になっており、この時期に政治危機も起きるかもしれないという見方が加わった。このように、いくつかの分かりやすい要因が時期を同じくして重なるため、その明快さから